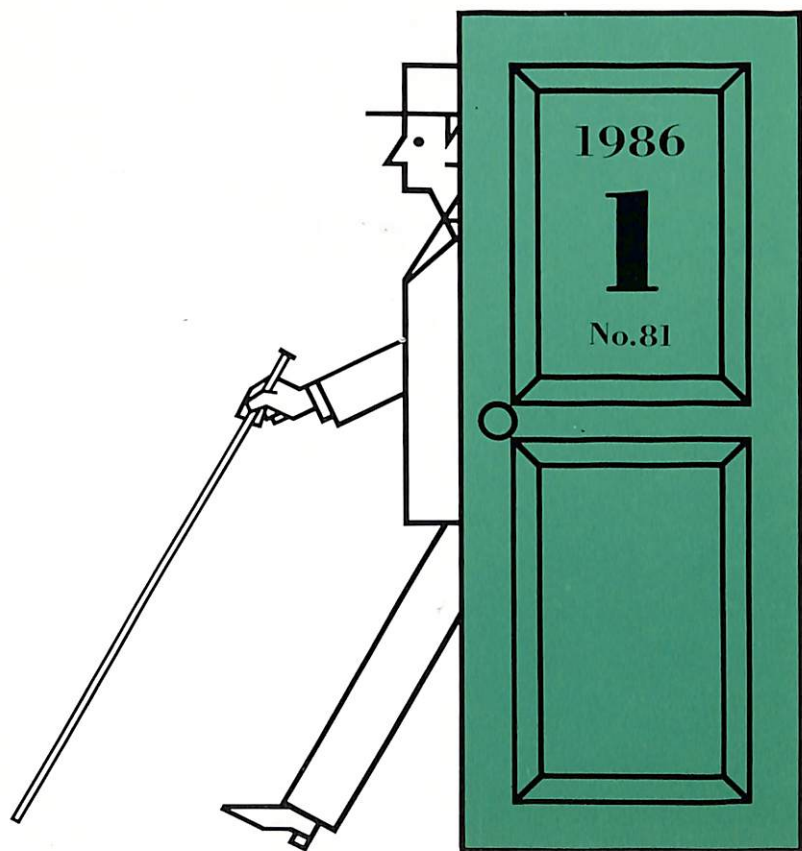


視覚障害

その研究と情報

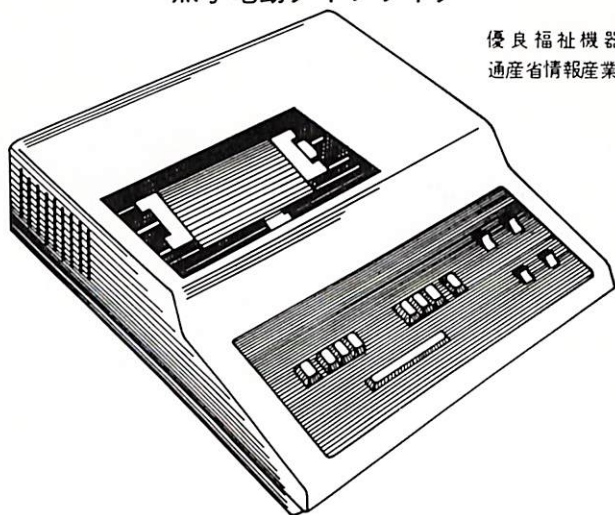


ISSN 0385-7476
SSK

Braille Data Terminal

ESA 731

点字電動タイプライタ



優良福祉機器表彰制度
通産省情報産業局長賞受賞

ESA731はコンピュータをはじめとする
情報機器との接続が可能な電動タイプライタです
使い方いろいろ。点字情報の
未来を拓くためのお役に立ちます。

特 徴

- 簡単な操作
パーキンスタイプライタと同じキー配置
- 利用範囲を大きく広げる点字プリント機能
毎秒10文字のハイスピード印字
- 良質な印字
110kgの用紙までプリント可能
- 改ページ機能
連続用紙の採用により自動的にページ変えが可能

主な適用分野

- カナタイプ→点字タイプ思いのまま
自動点訳、自動代筆、録音タイプ
- 点字版ワードプロセッサ
小部数の複製が手軽にとれます。
- コンピュータ端末装置
マイコン、ミニコン、大型コンピュータの
いずれにも接続してコンピュータの情報を
点字で入手できます。

(株)白雷商会

福祉機器事業部

〒174 東京都板橋区前野町3-48-2 電話03(969)8266(代表)

目 次

1986年 1月 No81

2 ページ評論	松井新二郎	2
---------	-------	---

特集 海外に学ぶ

座談会 英語力やお金にこだわることはない

— アメリカの大学生活を経験して —

.....岡村 広子・田辺 邦夫・田中 徹二	5
------------------------	---

海外で学ぶ盲人の皆さまに

— 「VBS」その活動状況について —	24
---------------------	----

ボランティア西・東

やまびこの会	35
--------	----

この人と語る

IFLAと日本.....直居 鉄・河村 宏	42
-----------------------	----

インフォメーション・コーナー	55
----------------	----

編集後記	68
------	----



国際感覚を身につけよう

日本盲人職能開発センター所長 松井新二郎

1981年の国際障害者年には、障害者の援護を目的とした幾つかの団体の誕生をみました。財団法人広げよう愛の輪基金もその一つであります。この財団法人は、ある民間企業と、その企業の全国チェーン店に働く若者が毎年意欲的に募金を行ない、将来リーダーを志す若い障害者を毎年10名、3カ月から1年の期間を定めてアメリカに研修派遣を行なう等極めてユニークな事業を行なっています。留学研修生も5期生をすでに送り出しています。数多くの応募者の中から選ばれ留学を終えたものは、肢体障害者、視覚障害者、聴覚障害者、その他の障害者を併せて48名に及んでいます。その中で視覚障害者は14名です。私はこの財団法人の役員の一員として留学生の派遣事業に携ってきておりますが、この事業もようやく定着し、志願者の質的向上が逐年みられ喜びに堪えません。中でも視覚障害者の選考には頭を悩まされています。それは視覚障害者の応募者の質的向上が著しく、応募者全員を毎年送り出したい気持ちにかられてきます。これは私一人のみでなく選考委員だれしもが感ずるところであります。しかし、年間10名の枠があり、更には障害別人員も考慮しなければならず、最後の選考に苦慮するところでもあります。今まで一人旅の不安の中にも希望に胸をふくらませ、成田をとびたった一人ひとりが国際的感覚を身につけ、精神的にもたくましく成長して帰国し、その後海外研修の尊い体験を心の糧として海外交流に励むと共に、たくましく自立をしているのを見ると、心にはほのぼのとしたものを感じます。そして明日の世代をになってすくすくと伸びてほしいと心から願わずにはおられません。

先日こんなことがありました。アメリカのウェストミシガン大学の教授が来日した折のことです。彼は仕事の関係で日本の福祉施設を15カ所見てまわったそうです。しかし、その施設の英文で書かれた事業の内容をもらえたの

はわずか4カ所に過ぎなかったそうです。素晴らしい仕事や、研究をしているのに日本はどうして海外に紹介するためのものは準備されないのでしょうか。こんな言葉をきいてざくりと胸をさされ、強く反省させられました。ご存じのように世界には国際的盲人団体が二つありました。しかし、昨年10月にサウジアラビアで開かれた世界会議で統合され、世界盲人連合会の新たな発足をみました。そして、今年の1月から各国の盲人団体は会議の決議にもとづく「見る権利、情報を得る権利、働く権利、責任を伴う権利、更に協力の責任」等の実現のために活発な活動を展開しはじめました。従って国際障害者年を機として障害者並びに関係者の国際交流は、積極的に行われるようになってきていたところに最近、盲人関係の諸外国からの訪問者が堰を切ったように烈しく増加してまいりました。完全参加と平等が叫ばれてはいますが、これが権利の実現は障害者自身の自立の意識と、前向きの生活への取り組みがなくしては考えられません。今や全世界の障害者は自立への運動を展開し、国際的にも共に生きようと国際交流の波はひしひしと押し寄せています。考えてみますと、私共は同一民族で、同じ言語を使い、小さな島国に住んでいたのも、口には国際交流と言いながらも現実には自から閉鎖的社会をつくり出していたのかもしれない。

いまや科学の著しい進展と共に地球は小さくなってきています。私共は地球人間の一人としての自覚をもって21世紀にむかって力強い歩みを進めなければならない時がきています。日本盲人福祉研究会の中に海外交流委員会が先般来設けられ、海外に学んだ若者が共に語り、共に学び、また海外からの同僚の受け入れに若いエネルギーをもやしてくれていることは誠にうれしい限りであります。福祉に国境はありません。つぎの世代を担う若者が国際的感覚を身につけ、閉鎖的社会の壁を破って21世紀をめざしての活動を心から願わずにおられません。それを果たし得る者は若い人びとのエネルギーであると思います。一日も早く、一人でも多くの若者が育ってくれることを願って止みません。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

新年らしく海外雄飛を夢見ている若者のための特集を組みました。海外に留学したいと考えている盲青年がいましたら、ぜひこの特集を読むようお願いください。本誌は墨字版だけでなく、点字版もテープ版（C90、半減速）もあります（年間購読料は、いずれも3000円）。

そうした皆さんには、岡村さんや田辺さんの決断力と実行力に大いに学ぶものがあると思います。また、CWAJのまとめてくださった奨学金制度も参考になることでしょう。

最近は短期間のツアーに出掛ける盲人は数えきれませんし、ミスター・ドーナッツの研修制度の影響で、1年程度の留学や研修に出掛ける盲青年も枚挙にいとまありません。長期留学も、現在の私の知っているだけでも、児玉聖子さん（和光大卒）がU・Cバークレー、松谷歌子さん（立教大卒）がピッツバーグ大、堤万里子さん（都立文京盲卒）がボストン大で学んでいます。たのもしいい限りです。

ただ、問題は、岡村さんや田辺さんもふれているように、帰国してからの職業ということになるでしょうか。みんなで協力していきたいものです。

（田中 徹二）

視 覚 障 害 1986年1月 No81
年間購読料 3,000円（送料とも）

発行日 1986年1月1日

編集人 （連絡先）

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
日本点字図書館内 23番4号

電話（03）200-1130

振替口座 東京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京世田谷区砧6-26-21

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電 話（624）6111（代表）

協賛団体 日本点字図書館